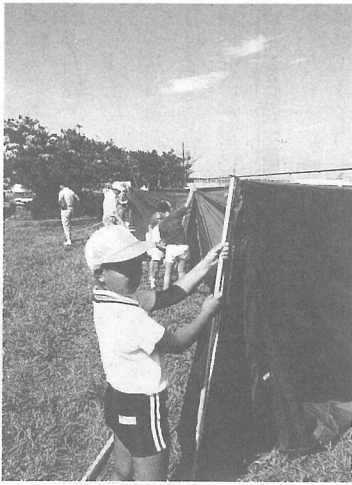
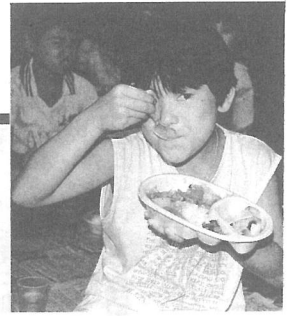


# ともだち いっぱいできました

体験キャンプと海のつどい



僕たちのマイホーム  
もうすぐ完成します

現代っ子は自分の好きなものを食べて、家に帰れば手伝わなくてもなく食事がつくってあるという生活の中で育ってきました。

そんな子どもたちへ、食べ物や水の大切さを教えようと町青少年相談員主催の「体験キャンプ」が1泊2日の日程で行われました。

参加者は小学生およそ60人で、元氣いっぱいの子どもたちばかりです。知らない子どもも同志でも、すぐに友達になって、学校の話などに花を咲かせ、会場の町保養センターの庭は友情の輪が広がっていききました。

## はじめは「テント張り」

そして、子どもたちの最初の体験は「テント張り」。キャ

ンプをしたことのある子どももいましたが、半分以上の子どもは初めてなのでとまどってしまい、指導者の手を借りてのマイホームづくり。自分たちの手でつくったテントに入ると、まるで自分の家にいるようにゆっくりと足を伸ばして、お菓子をほおぼる姿がみられました。

## 夕飯の仕度に挑戦！

でも、長い時間ゆっくりとしていることもできず、夕飯（カレーライス）の仕度。男の子はごはんを炊き、女の子はカレーの具の野菜切りと仕事の割り当てがあつて大忙し。男の子は飯ごうと竹でごはんを炊きましたが、竹で炊くごはんは珍しいので「これで本当に炊けるの？」と不思議に思う子どもがたくさんいました。

一方、女の子は、台所に立つたことがないせいか、なれない手つきで、にんじん・ジャガイモなどの皮むきに挑戦。玉ねぎを切つて目が充血して涙を見せる子どもも……。こうしてできあがつたカレーライスを食べた子どもたちは、「ちょっと火が強かったから焦げたごはんができたけど、



気をつけて！指切らないように

おいしい。」と大きい口をあけて食べていました。  
夜は下島春江さん（栗山）の指導によるキャンプファイヤーで盛り上がり、友情の絆を強くしました。

## お魚いっぱいとれたかな？

次の日は屋形海岸で海のつどい子ども大会が……。海岸に9時に集まった140人の子どもたちによって地びき網・すいか割り大会・宝探し大会が行われました。地びき網は、海に遊びにきていた人の参加もあつて「それ」のかけ声とともに網を引っ張っていききました。「あじの大漁」を意識してかビニ-



みんなで力いっぱい引いた地びき網

ル袋を持ってきたお母さんともいましたが、残念なことに不漁でした。でも、子どもたちにとつては自分でとつた魚とあり、うれしくて大喜び。中には、魚よりもカニが珍しくておみやげに持つて帰つた子もいました。

そして、なかなか自分のすいかまでたどりつくことができなくて隣のすいかを割ってしまった「すいか割り大会」、砂の中から1等から6等までの番号札を探す「宝探し大会」と楽しい催しが行われていきました。

参加した子どもたちには、夏休みの絵日記の思い出の1ページとなったことでしょう。